



(組入投資信託の運用状況)

特別勘定の名称	投資信託の名称	投資信託の運用会社	ページ
バランス A(25)	バランス A(25)VA1	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	1
バランス D(35)	バランス D(35)VA1		2
バランス B(37.5)	バランス B(37.5)VA1		3
バランス C(50)	バランス C(50)VA1		4
マザーファンドの状況			5

特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって

当資料をご覧ください際にご留意いただきたい事項

- ・当資料は既に当商品にご加入されたご契約者に対し、三井住友海上プライマリー生命のスイート&スイートSTB〔年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険（2005）〕、スイート&スイートSTB〔変額個人年金保険（2005）〕、スイート&スイートSTB LGシリーズ〔変額個人年金保険（2005）〈保証金額付特別勘定終身年金特約／加算年金1年更新特則付特別勘定終身年金特約（07）〉〕、スイート&スイートSTB AGシリーズ〔年金総額保証型特別勘定年金特約付変額個人年金保険（2005）〕の特別勘定および特別勘定が主たる投資対象とする投資信託の運用状況を開示するためのものです。なお、商品の詳細につきましては、商品パンフレット、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をご覧ください。
- ・当資料に記載されている運用実績等に関する情報は過去のものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、〔組入投資信託の運用状況〕に記載されているコメント等は当資料作成時点の見解に基づくものであり、予告なく変更されることがあります。
- ・〔組入投資信託の運用状況〕は、運用会社が作成する運用報告を三井住友海上プライマリー生命が参考情報としてそのまま提供するものであり、内容に関しては、三井住友海上プライマリー生命の責めによるものを除き、三井住友海上プライマリー生命は一切の責任を負いません。

この保険商品についてご確認ください事項

■市場リスクについて

この保険は、払込みいただいた保険料を投資信託等を投資対象としている特別勘定で運用し、その運用実績に基づいて将来の死亡保険金額、解約払戻金額、および年金額等が変動（増減）するしくみの生命保険商品です。特別勘定の資産は、主に国内外の株式・債券等に投資する投資信託を通じて運用されるため、株価や債券価格の下落、為替の変動等により、解約払戻金等のお受取りになる合計額が払込まれた保険料を下回る可能性があり、損失が生じるおそれがあります。これらの特別勘定の運用に伴うリスクはすべてご契約者に帰属します。

■ご負担いただく費用について

この保険では、契約初期費用、保険関係費および資産運用関係費等をご負担いただきます。また、一定期間内にご契約を解約・一部解約する場合には、所定の解約控除がかかります。詳しくは次ページ「諸費用について」をご参照ください。

■その他

- ・変額個人年金保険は特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、ご契約者が投資信託を直接保有するものではありません。
- ・特別勘定のユニットプライスの値動きは、特別勘定が投資対象とする投資信託の値動きと必ずしも一致しません。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有することがあることや、ユニットプライスの計算に当たり保険関係費等の費用を控除すること等によるものです。

特にご注意いただきたい事項

年金総額保証型特別勘定年金特約をご選択された場合、年金受取総額の最低保証は、年金総額保証型特別勘定年金の受取期間満了を迎えることにより保証されますので、年金受取開始時や年金受取期間中に一括受取や一般勘定で運用する年金種類に変更した場合には、年金受取総額の最低保証はありません。

諸費用について

この保険の費用の合計は、以下の費用の合計額となります。

ご契約時にご負担いただく費用

項目	目的	費用	時期
契約初期費用	当保険契約の締結などに必要な費用	一時払保険料の3%	特別勘定への繰入前に、一時払保険料から控除します。



ご注意

増額した場合にも、契約初期費用として増額保険料の3%が控除されます。

特別勘定での運用期間中にご負担いただく費用

1. すべてのご契約者にご負担いただく費用

下記の費用を控除した上で、ユニットプライスは計算されます。

項目	目的	費用	時期
保険関係費	当保険契約の締結および維持などに必要な費用ならびに死亡保険金・災害死亡保険金等を支払うための費用	保証金額付特別勘定終身年金特約 または年金総額保証型特別勘定年金特約 を付加した場合 積立金額に対して年率 2.30% *1	積立金額に対して左記の年率の1/365を乗じた金額を毎日控除します。
		特別勘定終身年金特約 (07) を付加した場合 積立金額に対して年率 2.90% *2	
資産運用関係費	投資信託の信託報酬など、特別勘定の運用にかかわる費用	全ての特別勘定共通 年率 0.352% 程度 (消費税込)	各特別勘定の資産残高に対して左記の年率の1/365を乗じた金額を毎日控除します。

*1 保証金額付特別勘定終身年金特約または年金総額保証型特別勘定年金特約の費用（積立金額に対してそれぞれ年率0.8%）を含みます。

*2 特別勘定終身年金特約 (07) の費用（積立金額に対して年率1.4%）を含みます。



ご注意

・資産運用関係費は信託報酬を記載しています。この他、信託財産留保額、有価証券の売買手数料、運用関連の税金、監査費用等がかかる場合がありますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。これらの費用は特別勘定がその保有資産から負担するため、特別勘定のユニットプライスに反映されることとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

・資産運用関係費は、運用手法の変更、運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

2. 下記のお取扱いの場合に別途ご負担いただく費用

特別勘定のユニットプライスを計算した後に特定の契約者にご負担いただきます。

項目	費用	時期
積立金移転手数料	1 保険年度に 15 回目までは無料 1 保険年度 16 回目以後の移転について 2,500 円/回	移転時に積立金から控除します。
解約控除	解約するとき	経過年数に応じて、 払込保険料総額に対して 1~4% 解約時・一部解約時に積立金から控除します。
	一部解約するとき	

※ 一部解約請求金額が払込保険料総額を上回る場合には、解約控除対象額は払込保険料総額を上限とします。一部解約の際に解約控除対象額として取扱われた金額については、以後の解約控除対象額の計算の対象とする払込保険料総額から控除して取扱います。

※ 契約日（増額日）から 10 年未満で一般勘定で運用する定額年金へ変更した場合には、契約日（増額日）からの経過年数に応じた解約控除がかかります。

<解約控除率>

契約日(増額日)からの経過年数	1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 4年未満	4年以上 5年未満	5年以上 6年未満	6年以上 7年未満	7年以上 8年未満	8年以上 9年未満	9年以上 10年未満	10年以上
解約控除対象額に対する解約控除率	4%	4%	4%	3%	3%	3%	2%	2%	1%	1%	0%

一般勘定で運用する年金支払期間中にご負担いただく費用

下記の年金管理費を年金支払開始日以後にご負担いただきます。（遺族年金支払特約による年金も含みます。）

項目	費用	時期
年金管理費	年金額に対して 1%	年金支払開始日以後、年金支払日に責任準備金から控除します。

※ 上記費用は上限です。なお、年金支払開始日時点の費用を年金支払期間を通じて適用します。

バランスA(25)VA1(適格機関投資家専用)

2024年2月29日現在



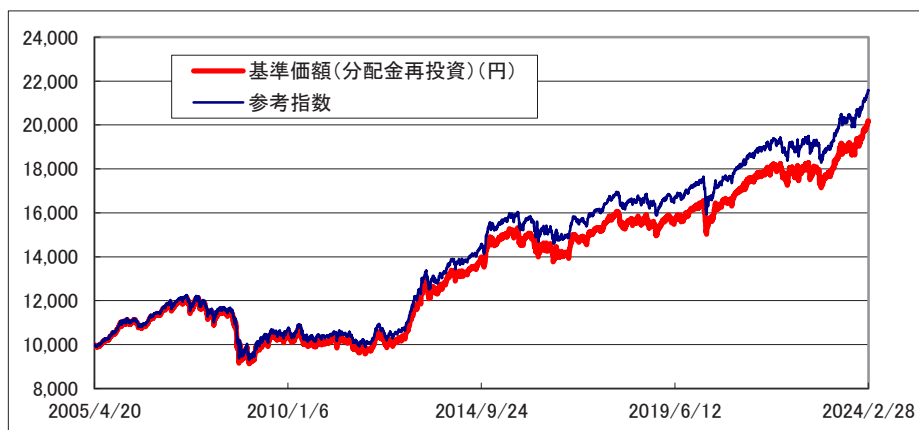
① 当月末基準価額

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
20,102 円	40 円	7,890 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
667,395 百万円	662,972 百万円	700,694 百万円	321,899 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位：%)

【騰落率】

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	1.82	4.35	5.50	13.58	18.16	101.63
参考指数	1.79	4.29	5.68	13.75	18.63	115.63
差	0.04	0.06	-0.18	-0.18	-0.46	-14.00

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位：%)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	16.0	15.0	1.0	0.74
国内債券 (短期金融資産込)	38.6	40.0	-1.4	0.13
外国株式	10.9	10.0	0.9	0.48
外国債券	34.6	35.0	-0.4	0.45
その他	-	-	-	0.02
合計	100.0	100.0	-	1.82

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因他です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスD(35)VA1(適格機関投資家専用)

2024年2月29日現在

① 当月末基準価額

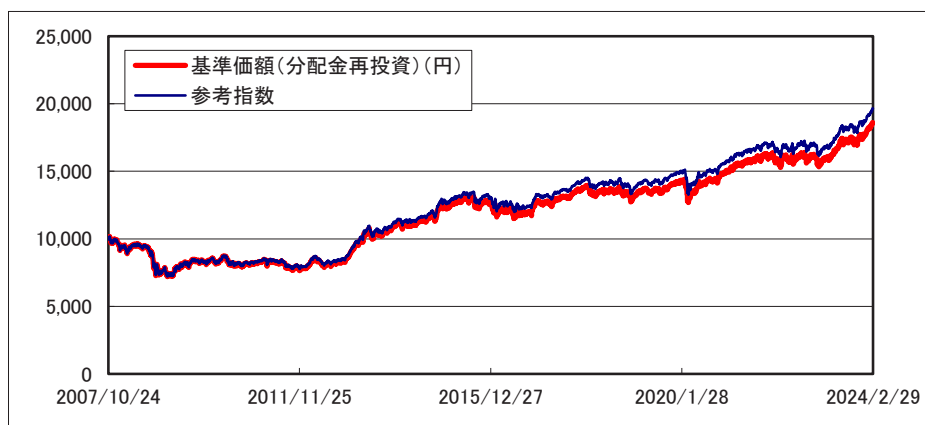


基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
18,556 円	20 円	4,096 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
667,395 百万円	662,972 百万円	700,694 百万円	321,899 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位：%)

【騰落率】

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	2.14	5.37	6.67	16.33	23.51	85.86
参考指数	2.20	5.43	6.97	16.68	24.38	96.41
差	-0.06	-0.05	-0.30	-0.35	-0.87	-10.56

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位：%)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	20.5	20.0	0.5	0.98
国内債券 (短期金融資産込)	34.3	35.0	-0.7	0.11
外国株式	15.4	15.0	0.4	0.72
外国債券	29.8	30.0	-0.2	0.39
その他	-	-	-	-0.07
合計	100.0	100.0	-	2.14

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスB(37.5)VA1(適格機関投資家専用)

2024年2月29日現在

① 当月末基準価額

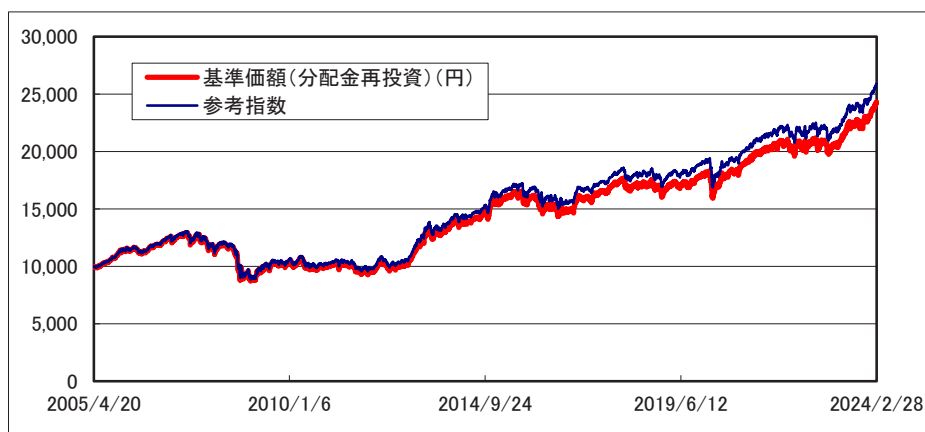
 三井住友トラスト・アセットマネジメント

基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
24,166 円	60 円	3,963 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
667,395 百万円	662,972 百万円	700,694 百万円	321,899 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位：%)

【騰落率】

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	2.31	5.81	7.21	17.77	26.24	142.72
参考指数	2.34	5.83	7.50	18.08	27.09	158.72
差	-0.02	-0.03	-0.29	-0.31	-0.85	-16.00

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位：%)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	20.6	20.0	0.6	0.98
国内債券 (短期金融資産込)	29.3	30.0	-0.7	0.09
外国株式	18.1	17.5	0.6	0.84
外国債券	32.1	32.5	-0.4	0.42
その他	-	-	-	-0.03
合計	100.0	100.0	-	2.31

- (注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。
- (注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
- (注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因です。
- (注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスC(50)VA1 (適格機関投資家専用)

2024年2月29日現在

① 当月末基準価額

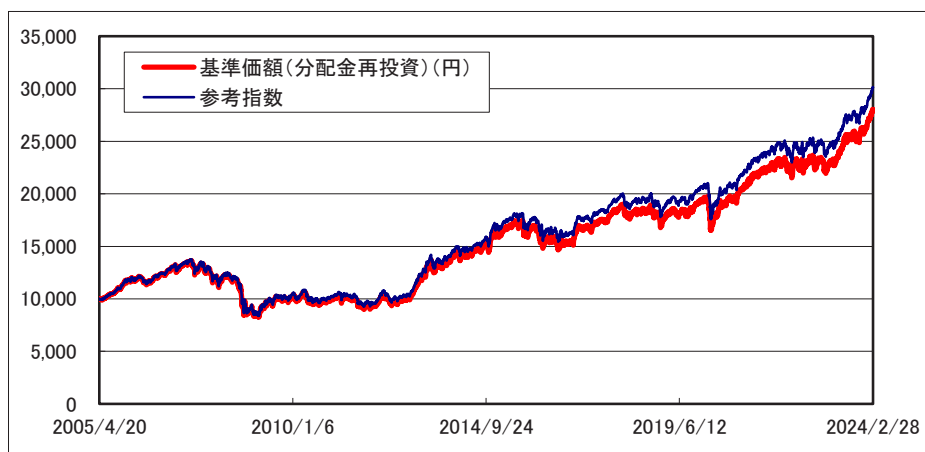


基準価額	既払分配金(税引前)	純資産総額
27,885 円	60 円	21,672 百万円

【マザーファンドの純資産総額】

国内株式	国内債券	外国株式	外国債券
667,395 百万円	662,972 百万円	700,694 百万円	321,899 百万円

② 当ファンドの運用状況



(単位：%)

【騰落率】

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
当ファンド	2.81	7.20	8.78	21.34	33.75	180.04
参考指数	2.84	7.23	9.04	21.63	34.71	201.13
差	-0.03	-0.03	-0.27	-0.29	-0.97	-21.10

【資産構成比と基準価額騰落貢献度(月次)】

(単位：%)

資産	月末時価 構成比	基本 資産配分	差	基準価額 騰落貢献度
国内株式	25.6	25.0	0.6	1.23
国内債券 (短期金融資産込)	24.2	25.0	-0.8	0.08
外国株式	25.6	25.0	0.6	1.21
外国債券	24.6	25.0	-0.4	0.32
その他	-	-	-	-0.03
合計	100.0	100.0	-	2.81

(注1) グラフデータは設定日から基準日までを表示しています。また、基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

(注2) 参考指数は各組入資産のベンチマークを指数化したものに、その資産の基本資産配分を乗じたものの合計を、当初設定日を10,000として指数化した合成インデックスです。

(注3) 騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

(注4) 「基準価額騰落貢献度」の「その他」は、信託報酬、基準比差異効果及び資金流入要因です。

(注5) 運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

特別勘定の名称：バランスA(25),B(37.5),C(50)

バランスA(25)VA1,B(37.5)VA1,C(50)VA1のマザーファンド

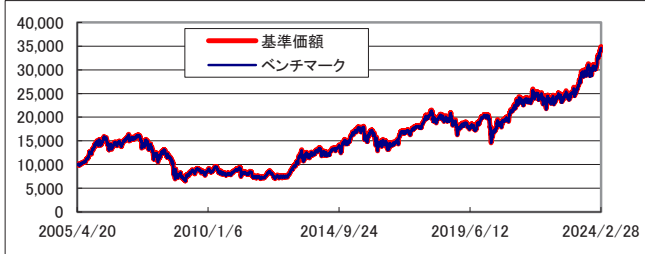
バランスA(25)VA1(適格機関投資家専用)、バランスB(37.5)VA1(適格機関投資家専用)、
 バランスC(50)VA1(適格機関投資家専用)共通

2024年2月29日現在



③ 資産(マザーファンド)毎の運用状況

【国内株式】



<騰落率>

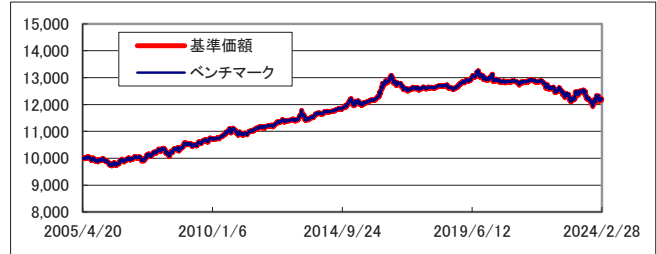
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	4.92	12.87	16.02	37.65	54.35	174.98
ベンチマーク	4.93	12.87	16.01	37.64	54.38	170.94
差	0.00	0.00	0.01	0.01	-0.03	4.04

<市場の動き>

国内株式市場は上昇しました。前半は、前月のFOMC(米連邦公開市場委員会)を受けて早期の利下げ期待が後退し、国内株式市場は一進一退の動きとなりました。しかし、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持するとの見方から、国内株式市場は急伸しました。後半は、日銀の緩和継続姿勢や半導体株への期待を手掛かりに、国内株式市場は上昇基調を維持しました。さらに、米ハイテク株の堅調な株価推移が国内の半導体関連株を押し上げ、日経平均株価が過去最高値を更新するなど、国内株式市場も堅調に推移しました。

【国内債券】



<騰落率>

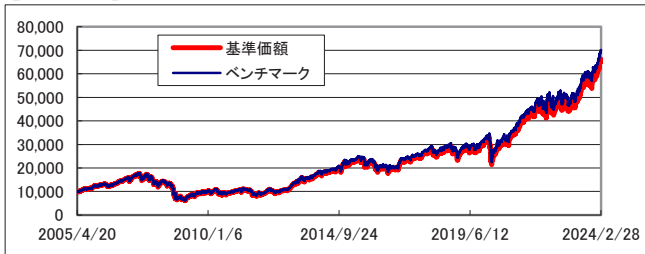
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.32	0.00	-0.23	-0.72	-4.20	33.66
ベンチマーク	0.32	0.01	-0.23	-0.72	-4.22	34.13
差	0.00	-0.01	0.00	0.00	0.02	-0.47

<市場の動き>

国内債券市場では、10年国債利回りが0.710%に低下(価格は上昇)しました。月初は10年国債入札が無難な結果となり利回りは低下しました。その後、米国の雇用統計が事前予想を上回ったことを受けて、米国の早期利下げ観測が後退し米長期金利が上昇に転じたことから、国内金利にも上昇圧力がかかりました。利回りは一時0.765%と2カ月ぶりの高水準まで上昇しましたが、金利が上昇したところでは押し目買いがみられ、0.70%前後での推移が続きました。また、日銀が3月または4月の日銀政策決定会合にてマイナス金利解除など政策修正に踏み切るとの見方が根強い中、金融政策の動向を反映しやすい中短期債利回りは上昇しました。

【外国株式】



<騰落率>

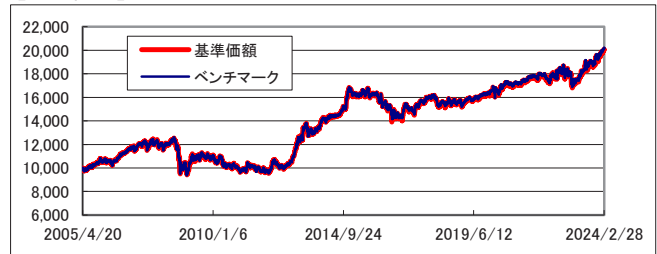
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	4.83	13.21	15.15	37.30	83.30	507.73
ベンチマーク	4.87	13.28	15.25	37.70	84.11	563.46
差	-0.04	-0.07	-0.10	-0.40	-0.81	-55.73

<市場の動き>

米国株式市場は上昇しました。CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことなどから早期の利下げ観測が一段と後退したことや、長期金利が上昇したことが重石となる場面もありましたが、大型ハイテク株や半導体関連株を始めとした好業績銘柄への買いがけん引し上昇しました。半導体大手エヌビディアの決算や売上高見通しが市場予想を大幅に上回り、生成AI市場の成長期待が一段と高まったことが市場心理を強気に傾けました。欧州株式市場は上昇しました。軟調な経済指標などが嫌気されて下落する場面もありましたが、好決算や積極的な株主還元策を公表した銘柄が市場をけん引しました。米国の主要株価指数の最高値更新が続いたことや、欧州の中央銀行が先行きは利下げに転じるとの期待も市場心理を支えました。

【外国債券】



<騰落率>

(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.30	3.21	5.12	14.97	17.93	249.53
ベンチマーク	1.24	3.10	5.53	15.39	17.55	256.40
差	0.05	0.11	-0.41	-0.42	0.39	-6.87

<市場の動き>

米国10年国債利回りは上昇(価格は下落)しました。利回りは月初に3.8%台に低下しました。その後中旬にかけては、月初の雇用指標に加え、中旬発表の物価指標が上振れしたこと等を受けて、早期の利下げ期待が後退し、利回りは一時4.3%台に上昇しましたが、下旬にかけては利回りは4.2%台を中心にレンジ内の推移となりました。ドイツ10年国債利回りは上昇しました。上旬は米長期金利の上昇を受けて欧州国債にも売りが波及したほか、ECB(欧州中央銀行)高官から早期利下げに慎重な発言が相次いだことで、利回りが上昇しました。中旬以降はECB総裁が賃金伸び率の鈍化を前向きに捉える発言をしたことで利回りは一時低下する局面もありましたが、その後は再び上昇に転じました。

<各資産のベンチマーク(グラフはバランスA(25)VA1、B(37.5)VA1、C(50)VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示)>

国内株式 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)
 国内債券 NOMURA-BPI 総合

外国株式 MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
 外国債券 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

バランスD(35)VA1のマザーファンド

バランスD(35)VA1(適格機関投資家専用)

2024年2月29日現在



③ 資産(マザーファンド)毎の運用状況

【国内株式】



<騰落率>

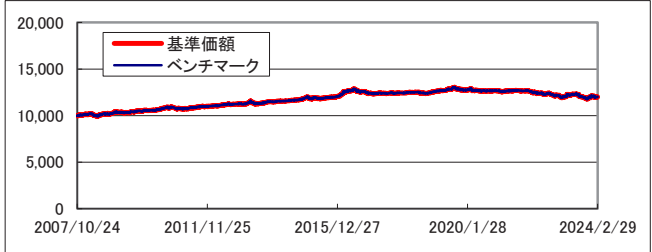
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	4.92	12.87	16.02	37.65	54.35	174.98
ベンチマーク	4.93	12.87	16.01	37.64	54.38	170.94
差	0.00	0.00	0.01	0.01	-0.03	4.04

<市場の動き>

国内株式市場は上昇しました。前半は、前月のFOMC(米連邦公開市場委員会)を受けて早期の利下げ期待が後退し、国内株式市場は一進一退の動きとなりました。しかし、日銀がマイナス金利解除後も緩和的な金融環境を維持するとの見方から、国内株式市場は急伸しました。後半は、日銀の緩和継続姿勢や半導体株への期待を手掛かりに、国内株式市場は上昇基調を維持しました。さらに、米ハイテク株の堅調な株価推移が国内の半導体関連株を押し上げ、日経平均株価が過去最高値を更新するなど、国内株式市場も堅調に推移しました。

【国内債券】



<騰落率>

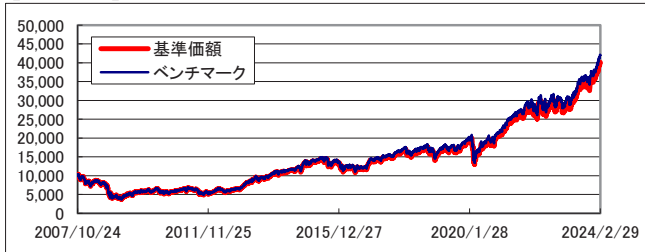
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	0.32	0.00	-0.23	-0.72	-4.20	33.66
ベンチマーク	0.32	0.01	-0.23	-0.72	-4.22	34.13
差	0.00	-0.01	0.00	0.00	0.02	-0.47

<市場の動き>

国内債券市場では、10年国債利回りが0.710%に低下(価格は上昇)しました。月初は10年国債入札が無難な結果となり利回りは低下しました。その後、米国の雇用統計が事前予想を上回ったことを受けて、米国の早期利下げ観測が後退し米長期金利が上昇に転じたことから、国内金利にも上昇圧力がかかりました。利回りは一時0.765%と2カ月ぶりの高水準まで上昇しましたが、金利が上昇したところでは押し目買いがみられ、0.70%前後での推移が続きました。また、日銀が3月または4月の日銀政策決定会合にてマイナス金利解除など政策修正に踏み切るとの見方が根強い中、金融政策の動向を反映しやすい中短期債利回りは上昇しました。

【外国株式】



<騰落率>

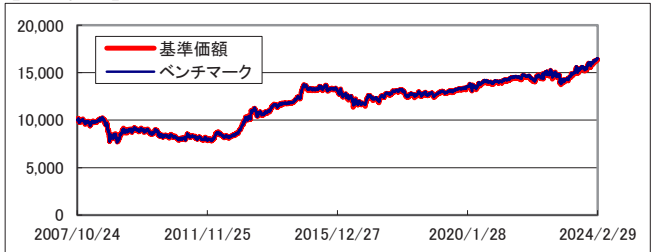
(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	4.83	13.21	15.15	37.30	83.30	507.73
ベンチマーク	4.87	13.28	15.25	37.70	84.11	563.46
差	-0.04	-0.07	-0.10	-0.40	-0.81	-55.73

<市場の動き>

米国株式市場は上昇しました。CPI(消費者物価指数)が市場予想を上回ったことなどから早期の利下げ観測が一段と後退したことや、長期金利が上昇したことが重石となる場面もありましたが、大型ハイテク株や半導体関連株を始めとした好業績銘柄への買いがけん引し上昇しました。半導体大手エヌビディアの決算や売上高見通しが市場予想を大幅に上回り、生成AI市場の成長期待が一段と高まったことが市場心理を強気に傾けました。欧州株式市場は上昇しました。軟調な経済指標などが嫌気されて下落する場面もありましたが、好決算や積極的な株主還元策を公表した銘柄が市場をけん引しました。米国の主要株価指数の最高値更新が続いたことや、欧州の中央銀行が先行きは利下げに転じるとの期待も市場心理を支えました。

【外国債券】



<騰落率>

(単位%)

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	設定来
マザーファンド	1.30	3.21	5.12	14.97	17.93	249.53
ベンチマーク	1.24	3.10	5.53	15.39	17.55	256.40
差	0.05	0.11	-0.41	-0.42	0.39	-6.87

<市場の動き>

米国10年国債利回りは上昇(価格は下落)しました。利回りは月初に3.8%台に低下しました。その後中旬にかけては、月初の雇用指標に加え、中旬発表の物価指標が上振れしたこと等を受けて、早期の利下げ期待が後退し、利回りは一時4.3%台に上昇しましたが、下旬にかけては利回りは4.2%台を中心にレンジ内の推移となりました。ドイツ10年国債利回りは上昇しました。上旬は米長期金利の上昇を受けて欧州国債にも売りが波及したほか、ECB(欧州中央銀行)高官から早期利下げに慎重な発言が相次いだことで、利回りが上昇しました。中旬以降はECB総裁が賃金伸び率の鈍化を前向きに捉える発言をしたことで利回りは一時低下する局面もありましたが、その後は再び上昇に転じました。

<各資産のベンチマーク(グラフはバランスD(35)VA1の当初設定日を10,000として指数化し、設定日から基準日までを表示)>

国内株式 TOPIX(東証株価指数)(配当込み)
国内債券 NOMURA-BPI 総合

外国株式 MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円換算ベース)
外国債券 FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

この保険のご留意いただきたい内容については、巻頭に「特別勘定運用レポートをご覧くださいにあたって」の記載がございますので、必ずご確認ください。

<参考情報>

マザーファンドの状況 2024年2月29日

【国内株式】

マザーファンド名：国内株式インデックス マザーファンド

◆株式組入上位10銘柄(対株式資産比率)

銘柄数：2,078

順位	銘柄名	業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.25%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.44%
3	ソニーグループ	電気機器	2.42%
4	東京エレクトロン	電気機器	2.06%
5	キーエンス	電気機器	1.85%
6	三菱商事	卸売業	1.72%
7	日立製作所	電気機器	1.62%
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.54%
9	信越化学工業	化学	1.51%
10	日本電信電話	情報・通信業	1.43%

◆株式組入上位10業種(対純資産比率)

順位	業種	比率
1	電気機器	17.34%
2	輸送用機器	9.30%
3	情報・通信業	7.48%
4	卸売業	7.26%
5	銀行業	7.25%
6	化学	5.72%
7	機械	5.43%
8	サービス業	4.52%
9	医薬品	4.46%
10	小売業	4.14%

【外国株式】

マザーファンド名：外国株式インデックス マザーファンド

●組入上位10銘柄(対株式資産比率)(円換算ベース)

銘柄数：1,255

順位	銘柄	国名	比率
1	MICROSOFT CORP	米国	4.86%
2	APPLE INC	米国	4.79%
3	NVIDIA CORP	米国	3.24%
4	AMAZON.COM	米国	2.71%
5	META PLATFORMS INC-CLASS A	米国	1.82%
6	ALPHABET INC-CL A	米国	1.37%
7	ALPHABET INC-CL C	米国	1.21%
8	ELI LILLY & CO	米国	1.03%
9	TESLA INC	米国	0.97%
10	BROADCOM INC	米国	0.97%

●通貨別組入比率(対株式資産比率)(円換算ベース)

順位	通貨名	ファンド
1	米国ドル	75.67%
2	ユーロ	9.35%
3	英国ポンド	4.00%
4	カナダ・ドル	3.23%
5	スイス・フラン	2.66%
6	オーストラリア・ドル	2.01%
7	デンマーク・クローネ	1.00%
8	スウェーデン・クローナ	0.88%
9	香港ドル	0.54%
10	シンガポール・ドル	0.33%
11	ノルウェー・クローネ	0.16%
12	イスラエル・シェケル	0.11%
13	ニュージーランド・ドル	0.06%
14		

銘柄数にはREITを含みます。

【国内債券】

マザーファンド名：国内債券インデックス マザーファンド

◆公社債組入上位10銘柄(対純資産比率)

銘柄数：1,015

順位	銘柄名	クーポン(%)	比率	償還年月日
1	第350回利付国債(10年)	0.10%	0.98%	2028/3/20
2	第153回利付国債(5年)	0.01%	0.90%	2027/6/20
3	第148回利付国債(5年)	0.01%	0.90%	2026/6/20
4	第344回利付国債(10年)	0.10%	0.89%	2026/9/20
5	第339回利付国債(10年)	0.40%	0.89%	2025/6/20
6	第370回利付国債(10年)	0.50%	0.88%	2033/3/20
7	第346回利付国債(10年)	0.10%	0.87%	2027/3/20
8	第149回利付国債(5年)	0.01%	0.85%	2026/9/20
9	第366回利付国債(10年)	0.20%	0.85%	2032/3/20
10	第364回利付国債(10年)	0.10%	0.82%	2031/9/20

◆公社債種別構成比(対純資産比率)

順位	種別	比率
1	国債	84.88%
2	地方債	5.95%
3	事業債	6.09%
4	政府保証債	1.27%
5	MBS	1.26%
6	金融債	0.31%
7	円建外債	0.27%
8	ABS	0.01%
9	その他債券	0.00%
10	短期金融資産等	-0.04%
	合計	100.00%

【外国債券】

マザーファンド名：外国債券インデックス マザーファンド

●通貨別組入比率(対純資産比率)(円換算ベース)

銘柄数：888

順位	通貨名	比率
1	米国ドル	46.82%
2	ユーロ	31.83%
3	中国元	8.40%
4	英国ポンド	5.16%
5	カナダ・ドル	1.98%
6	オーストラリア・ドル	1.34%
7	メキシコ・ペソ	0.87%
8	ポーランド・ズロチ	0.53%
9	マレーシア・リンギット	0.49%
10	シンガポール・ドル	0.40%
11	イスラエル・シェケル	0.33%
12	デンマーク・クローネ	0.27%
13	ニュージーランド・ドル	0.23%
14	スウェーデン・クローナ	0.20%
15	ノルウェー・クローネ	0.17%
16	日本・円(キャッシュ等含む)	0.98%
	合計	100.00%

募集代理店

引受保険会社

三井住友海上プライマリー生命保険株式会社

〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7 八重洲ファーストフィナンシャルビル

資料請求・お問い合わせ

フリーダイヤル 0120-125-104

<https://www.ms-primary.com>